

平成28年産米の作柄概況および平成29年産米に向けて

平成 28 年産米は田植え時期から出穂期まで高温で推移し、登熟期間中も多日照となったことで県内の作柄は「やや良」となりました。

11 月 10 日現在の集荷状況は、124,790 俵（前年対比 102.4%）となり、その内訳については倉前・良質米で 98,125 俵、カントリー・ライスセンターで 26,665 俵となりました。

コシヒカリ

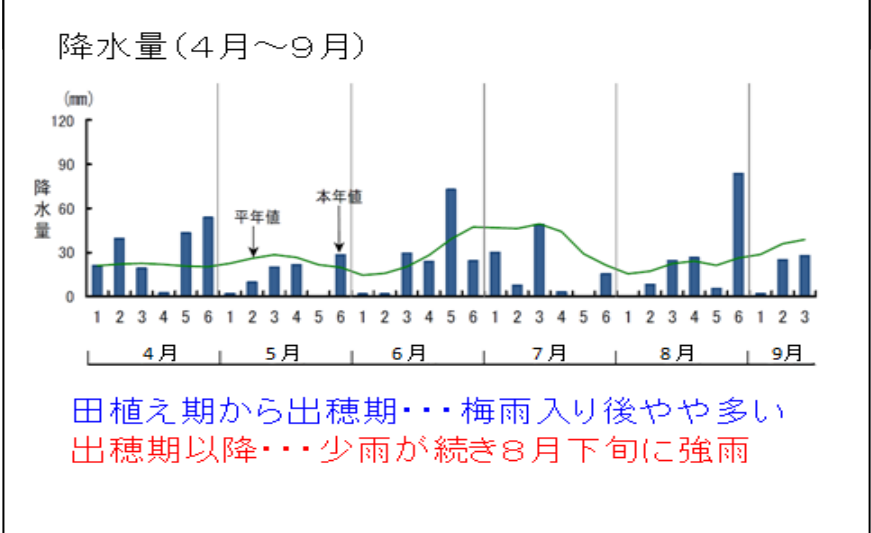
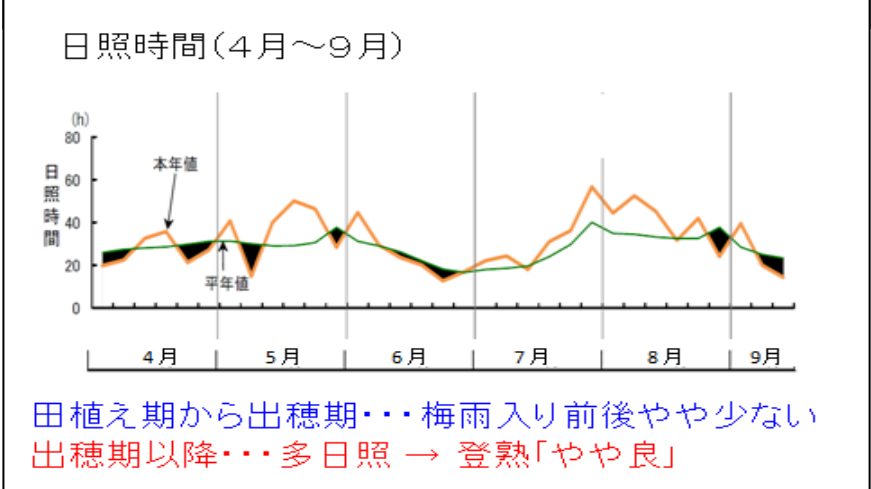
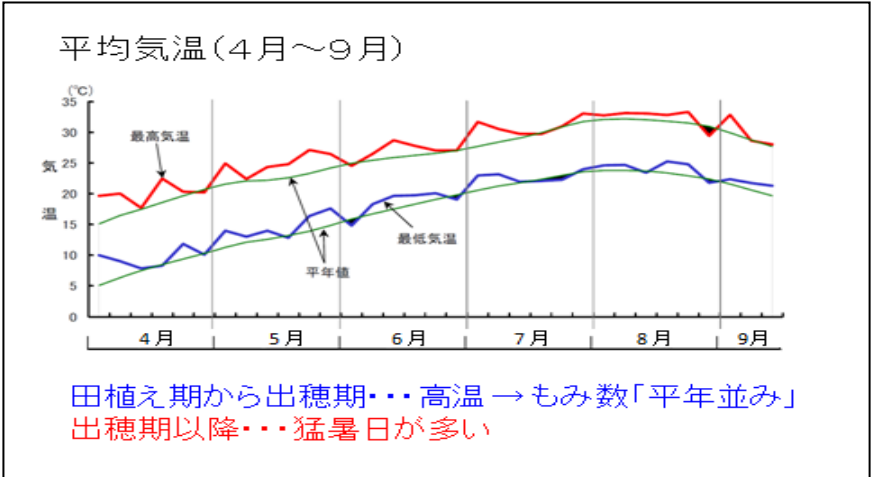
コシヒカリについては登熟期間が極めて高温で推移したため、成熟期までの日数が短くなり、網下率が高く、収量は平年並みとなりました。又、高温登熟したことで、平坦地では白未熟粒が多くなったものの、食味値は全域で高く（管内平均 82：前年 78）

山間地や平坦地の山際の集落を中心に、特別栽培コシヒカリ出荷数量の 22.8%（3,781 俵）がインセンティブ買入制度の対象となりました。

平成 29 年産に向けて、異常気象の条件下でも負けない稲作りでさらなる品質、収量向上に努めましょう。

年度別インセンティブの状況

| 年度 | 項目 | 特別栽培米 | インセンティブ | 割合 |
|---------|--------|--------|---------|-------|
| | 出荷量（俵） | 出荷量（俵） | 対象数量（俵） | |
| 平成 24 年 | 22,457 | 22,457 | 1,819 | 8.0% |
| 平成 25 年 | 20,000 | 20,000 | 120 | 0.6% |
| 平成 26 年 | 15,914 | 15,914 | 557 | 3.5% |
| 平成 27 年 | 10,607 | 10,607 | 4,720 | 44.5% |
| 平成 28 年 | 16,584 | 16,584 | 3,781 | 22.8% |



生育調査圃 脱穀調査データ

| 品種名 | 調査点数 (点) | 全重 (kg/10a) | 粗玄米重 (kg/10a) | 精玄米重 (kg/10a) | 網下重 (kg/10a) | 網下率 (%) | 整粒歩合 (%) | 食味 スコア |
|------------------|-------------|----------------|------------------|------------------|-----------------|------------|-------------|-----------|
| 特裁コシヒカリ (平坦地) | 11 | 1,487 | 494 | 418 | 76 | 15.0 | 66.6 | 83 |
| 特裁コシヒカリ (山間地) | 11 | 1,309 | 525 | 431 | 93 | 18.7 | 74.0 | 80 |
| 省農薬あきさかり | 11 | 1,315 | 573 | 489 | 84 | 14.5 | 71.2 | 82 |
| 日本晴 | 22 | 1,552 | 578 | 548 | 30 | 5.2 | 71.1 | 74 |
| 日本晴(台風後) | 1 | 2,527 | 565 | 528 | 37 | 6.5 | 49.2 | 74 |
| 二毛作日本晴 | 4 | 1,774 | 543 | 511 | 32 | 5.6 | 76.4 | 74 |

【試験圃参考資料】

省農薬あきさかり

省農薬栽培等のあきさかりについては、葉いもちの発生が多く、穂いもちへの進展が心配されましたが、7~8月少雨となったため、平年並の収量と品質は極めて高く推移しました。(倉前上位等級比率95.2%)

無化学肥料栽培で使用する有機肥料は年々原料が高騰しており、安価な醗酵鶏糞をその代替として使用し、コスト削減及び収量向上を図りましょう。試験結果については、10a当りの収量が73kg増となり、16,000円の収入増となりました。

| 品種名 | 施肥量 (kg/10a) | 全重 (kg/10a) | 粗玄米重 (kg/10a) | 精玄米重 (kg/10a) | 網下重 (kg/10a) | 網下率 (%) | 整粒歩合 (%) | 食味 スコア |
|---------|-----------------|----------------|------------------|------------------|-----------------|------------|-------------|-----------|
| HG有機666 | 60 | 1,137 | 487 | 457 | 30 | 6.2 | 82.6 | 86 |
| 醗酵鶏糞 | 150 | 1,318 | 595 | 530 | 65 | 10.9 | 78.4 | 82 |
| HG有機666 | 60 | | | | | | | |

10a当り73kg収量増

肥料費

醗酵鶏糞 150 kg

(1袋/15kg/@100円×10袋)

1,000円



米代金

省農薬あきさかり 73 kg

(1kg/@233円×73kg)

17,000円



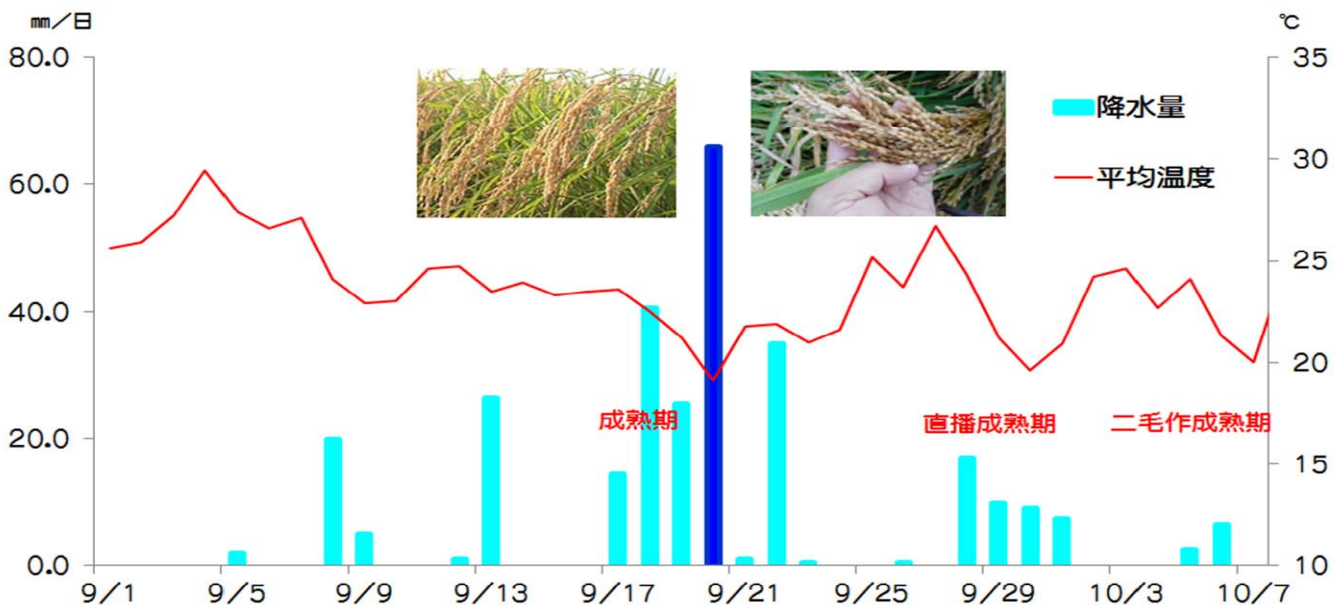
| | | | | |
|---------|---|--------|---|---------|
| 17,000円 | − | 1,000円 | = | 16,000円 |
| 米代金 | | 肥料費 | | 収入増 |

日本晴

日本晴については、網下の発生も少なく、高い収量となりましたが、成熟期の9月20日に台風16号の豪雨にあったことで、穂発芽による品質低下がみられました。(倉前上位等級比率73.0%)一方、熟期が遅い直播栽培や大麦あとの二毛作栽培では通常の日本晴を上回る収量及び品質となりました。

平成29年産米についても、農家の皆様の所得向上(産地確立支援)を図りながら、日本晴の一大産地を目指しておりますので、平成29年産についても日本晴の作付拡大をお願いします。

9月の降水量と平均気温



穂発芽とは

イネが出穂し登熟が進むにつれ、発芽能力を有するようになり、成熟前後に十分な湿度と温度に遭遇した場合、イネが立毛中であるにも関わらず発芽してしまうこと。一般的には倒伏したところや収穫が大きく遅れたところで穂発芽が発生するが、成熟期頃に長雨が続き、高温で推移するとこれを助長する。

発芽すると種実内の酵素が活性化し、胚乳に蓄積されているデンプンを分解して生長エネルギーなどに消費するため、変質を起こして品質が低下する。

今後のスケジュール

12月22日(木) 平成30年産からのフル生産に向けた研修会